

| | |
|------------------|---|
| Title | 著訳者紹介 |
| Author(s) | 聖学院大学総合研究所 |
| Citation | 聖学院大学総合研究所紀要, No.2, 1991.12 : (1)-(4) |
| URL | http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3392 |
| Rights | |



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〔著 訳 者 紹 介〕

(掲載順)

大木英夫 おおき・ひでお

1928年生れ、1956年東京神学大学大学院卒。1960年ユニオン神学大学（ニューヨーク）ドクターコース卒。神学博士。組織神学・社会倫理学専攻。元東京神学大学学長。現在、東京神学大学教授。学校法人聖学院理事長。

〔著書〕『ピューリタニズムの倫理思想』『ピューリタン——近代化の精神構造』『終末論の考察』『終末論』『現代人のユダヤ人化——現代文明論集』『キリスト入門』『歴史神学と社会倫理』『偶然性と宗教』『バルト』『日本の神学』（共著）『主の祈り』など。

近藤 勝彦 こんどう・かつひこ

1943年生まれ。東京大学文学部哲学科卒業の後、東京神学大学大学院修士課程修了。テュービンゲン大学神学部に留学。1977年「トレルチの形成の神学」で神学博士号を取得。現在、東京神学大学教授（組織神学）、聖学院大学特任教授（キリスト教社会倫理）。

〔著訳書〕著書として、『現代神学との対話』、『礼拝と教会形成の神学』、『中断される人生』、『人類・文明の救済とキリスト教』（共編著）ほか。訳書としてE.トレルチ『歴史主義とその諸問題』ほか。

隅谷三喜男 すみや・みきお

1916年生まれ。1941年東京帝国大学卒業。1948年東京大学経済学部助教授、1955年同教授。1977年定年退職後信州大学教授をへて、1980年東京女子神学学長（88年まで）。東京大学名誉教授。経済学博士。日本学士院会員。現在聖学院大学全学教授。

〔著書〕『近代日本の形成とキリスト教』『日本賃労働史論』『日本の労働問題』『日本石炭産業分析』『労働経済論』『韓国の経済』『大学はバベルの塔か』『日本社会思想の座標軸』『大学で何を学ぶか』『ひとすじの途——学問と信仰のはざままで』他多数。

ヨハネス・ヴァイス Johannes Weiß

1941年、ドイツ・ヘレンタール（アイフェル）に生まれる。ケルン大学、ボン大学、フライブルク大学で哲学・社会学・政治学・心理学とドイツ文学を学ぶ。学位取得後、1969年から、デュースブルク大学社会学助手、1977年、同大学社会学教授をへて、1981年からカッセル大学教授。

〔著書〕 Max Weber heute の編著ほか多数がある。

〔訳者〕 土方 透 ひじかた・とおる

1956年生れ。1981年中央大学法学部法律科卒業。1987年中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。現在聖学院大学政治経済学部専任講師。

〔著訳書〕 『ルーマン——来るべき知』（編著）N. ルーマン『法システムと法解釈学』、同『信頼』（共訳）、同『法と社会システム』、同『社会システムのメタ理論』、同『社会システムと時間論』、同『システム理論のパラダイム転換』（以上、部分訳）

フリードリヒ・H・テンブルック Friedrich H. Tenbruck

1919年生まれ。フライブルク、ベルリン、ケルン、グライスヴェルト、マールブルクの各大学で学ぶ。卒業論文はマールブルク大学で「カントの『純粹理性批判』におけるカテゴリーの超越論的導出」を書いた。その後、アメリカの大学で研究生として、社会学、文化人類学などを学んだあと、フランクフルト社会研究所を経て、1957年、アメリカのホバート・スミス大学助教授に就任。エアランゲン、フランクフルト大学で社会学を教えた後、1967年、テュービンゲン大学哲学科、法学・経済学科の社会学講座の教授となり、現在、同大学名誉教授。

〔著書〕 著作は、哲学、社会史、アメリカ研究の論稿の他、社会学史、とくにマックス・ウェーバーの研究など、多様な領域にわたっている。なかでも、ウェーバーに関する論稿では、ウェーバー研究に刺激的な問題提起をしてきた。邦訳されたものに、『マックス・ヴェーバー方法論の生成』（未来社、住谷・山田訳）、「ドイツにおけるウェーバー論争の現状」（藤本訳『甲南経済学論集』32-1）がある。

〔訳者〕 小林 純 こばやし・じゅん

1950年生まれ。1973年東京都立大学経済学部卒業。1979年立教大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。立教大学助手，高千穂商科大学講師，同助教授を経て，1990年より立教大学経済学部助教授。

〔著書〕『マックス・ヴェーバーの政治と経済』、『ドイツ国民経済の史的研究』（共編），『近代世界の変容』（共編）ほか。

ヨアヒム・マッテス Joachim Matthes

1930年生まれ。ベルリン自由大学で法律学・社会学・哲学を学ぶ。学位取得後，ドイツ・プロテスタントの諸機関で活躍。社会宗教研究所国際連盟 FERES 会長，ビーレフェルト大学社会学部長，ドイツ社会学会会長などを歴任。現在，ニュルンベルク・エアランゲン大学教授。

〔著書〕『社会からの教会移住』『宗教と社会——宗教社会学1』『教会と社会——宗教社会学2』『ドイツ・プロテスタント教会における教会員研究1，2』など。

河上民雄 かわかみ・たみお

1925年生まれ。1948年，東京大学文学部西洋史学科卒業。衆議員議員（1967-69，1972-1990年）。

現在，東海大学教授。

〔著書〕『現代政治家の条件』ほか。翻訳にコール『イギリス労働運動史』など。

酒井文夫 さかい・ふみお

1920年生まれ。1944年東京帝大法学部政治学科卒業。常葉学園大学（静岡市）教育学部教授を経て，現在，聖学院大学政治経済学部教授。

代表論文としては「国体と憲法学説——美濃部達吉を視座の中心として——」が在り，この論文は，みすず書房の全国公募に当選したものである。その他多数の論文が在るが，未だ書物として刊行されていない。

デール・T・グリフィー Dale T. Griffiee

1938年生まれ。アメリカ、ベイラー大学哲学部卒業後、School for International Trainingで、TESOLのM. A.を取得。ピッツバーグ大学 English Language Institute 日本校専任講師をへて、現在、聖学院大学総合研究所所員。

〔著書〕 Listen and Act, Hear Say, A Guide to Teaching English in Japan (共著) など。

荒木忠義 あらき・ただよし

1959年ウィーン生まれ。1990年チュービンゲン大学神学部において「日本神学思想史における高倉徳太郎の人生と著作」で神学修士号を取得。現在、聖学院大学総合研究所所員。

〔著訳書〕「京都宣言（第二回日本伝道会議）」（ドイツ語）、Mission und Heilsgeschichte bei Karl Hartenstein (1894—1952) (共著、近刊)。